

翼

つばき

東陽病院 「より深い信頼を求めて」

町長 佐藤 晴彦

MRI・磁気共鳴画像装置 導入決定

8月6日に開われました横芝光町議会臨時会に於いて、東陽病院から以前より導入要望がありましたMRI導入の為に1億5千万円の補正予算が承認可決されました。

最近ではMRIの設置は特別なものではありませんが、県内の100床以上の病床数をもつ公立病院で導入されていないのは当病院だけであり、そのためには撮影の必要が生じた患者さんには、近隣の設備されている病院まで行っていただいている状況にあります。



▲MRIが導入される東陽病院

東陽病院は合併後、組合立から横芝光町立病院となり町長の私が管理者として経営を任されており、院長をはじめ病院関係者と連絡を密に取りながら日々経営改善に努めているところで



▲MRI

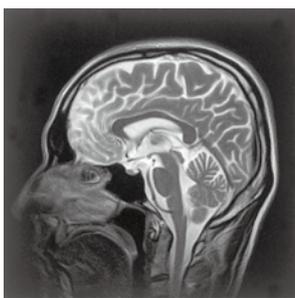
ありますが、現在のわが国の診療報酬制度は、自治体病院や総合病院などの設備を整えた病院の経営環境には大変厳しいものがあり、東陽病院も例外でなく毎年、町一般会計から4億円余りを繰り入れております。建設償還金や自治体病院を運営する市町村に交付される地方交付税を差し引いても、概ね1億円前後の実質的な経営赤字が発生しており、大変高価なMRIの導入については組合立時代ではなかなか結論が見出せなかったのであろうと推測され、更にはラニンングコストも高額となり厳しい病院経営を考えて導入が先延ばしにされてきました。

に単に利益を追求するだけではなく、あくまでも町民の皆様が安心して医療を受けられる場であるとともに、より高度化する医療を提供していくことが重要と考えています。そこで7月号の広報でお知らせいたしました国からの地域活性化・経済危機対策臨時交付金2億6千800万円の中から手当てをして、今般MRIの導入を議会に提案してご理解を頂いたものです。

MRIとは？

MRIは磁気や電波を用いて体内などの画像を撮影する装置で、レントゲンやCTでは写せない軟骨や筋肉、靭帯なども写すことができ、脳梗塞超急性期では早期に病変を描出することができると、整形や脳外科などの治療には特に有効な高度医療機器です。

現在では技術が進み、肝臓などの内臓の撮影も可能で、より



▲MRI画像

幅広い分野で利用できるようなり、必ずしも病院経営に対してマイナスとは限らず、このような新たな投資も必要であると考えております。

検討委員会の設置

現在、東陽病院では親切的な対応、解りやすい案内掲示、待ち時間の短縮など様々な課題や今後の病院経営について医師、看護師、行政を中心とした委員会として検討しています。最近の成果としては約6,300円の個人負担で受診できる国民健康保険加入者の日帰りドックの評判が良く、現在2ヶ月位待っていたにいたる状態です。又、町内企業の健康診断の利用も増加しており、今回のMRIの導入後は人間ドックのメニューもより充実したものにして行きたいと考えております。

より愛され、より信頼される東陽病院へ

いずれにしましても、MRI導入を一つの機会と捉え、更なる東陽病院の充実を図り、町民により愛され、より深い信頼の構築を図ることが肝要であり、その実現がなされる様、日々努力を重ねてまいります。